

ステークホルダー委員会

京都大学では、学生や地域住民、企業、行政関係者の方々からの意見を環境配慮活動に反映させるため、ご意見をお聞きする機会としてステークホルダー委員会を毎年開催しています。

今年はCO₂削減目標や環境賦課金、レジ袋削減の取り組みをメインテーマに、ご意見をいただきました。

詳しくは詳細版 46 ページへ HP▶<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/environment/report/index.htm/>

京都大学のCO₂削減目標

**建物延べ床面積1㎡あたり
CO₂排出量を毎年2%削減します。**

ステーク ホルダー 委員 からの意見

(建物面積が増加すると、CO₂排出総量としては増加することがあり得るため、その点について議論になりました。)

京都大学のCO₂排出量は1990年比で90%増加しており、社会的責任の重さを改めて認識する必要があるのではないのでしょうか。2050年までに世界の温室

効果ガスを半減させるといった話が出ている中で、大学だけが聖域でいられることはあり得ません。建物延べ床面積1㎡あたりでなく、総量の大幅削減を目指さないと社会的には許されないのではないのでしょうか。そうすると、大学の教育研究のあり方自体を変えていかなければならない時期に来ているとはいえないのでしょうか。

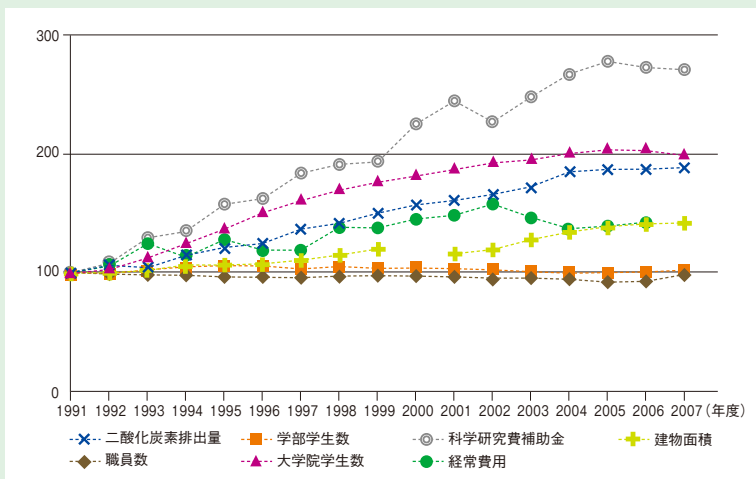


ステークホルダー委員会の様子

京都大学の場合、1990年当時と比較して現在は建物面積が1.4倍、大学院生数は2倍、科学研究費補助金にいたっては2.6倍になっています。このような状況の下では総量削減というのは現実的には相当に難しいと考えています。そこで、本学ではまず少なくとも5年程度は建物単位延べ床面積あたり排出量をおさえることを目標としました。

総量削減については真剣に考えていかなければならないと我々も認識しています。しかし、それが一体どの辺りの数

値目標でできるのか、まだ議論はまとまっていません。教育研究のあり方に関しては、環境管理という視点だけですむものではないことから、総合的な大学のあり方に関する議論の中で考慮していくことになるであろうと考えます。



1991年を100としたときの京都大学の諸指数の変化
注：1990年のデータが不完全なため、1991年を基準としています。
出典：京都大学概要

京都大学
委員
からの回答